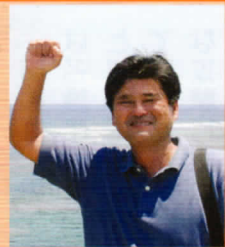


名護市  
議会議員

# 東恩納たくま



発行：東恩納たくま  
携帯：090-9786-9471

名護市字瀬高48 電話・FAX：0980-55-8587  
ホームページ：www.takumahigashionna.jimdo.com

議会報告第23号

## たくま！デニー知事と共に 9月11日名護市議選&県知事選！！

来る九月十一日は、私、東恩納たくまが立候補する名護市議会議員選挙と玉城デニー知事が再選を目指す沖縄県知事選挙が同時に行われます。

デニー知事の掲げる「誰ひとり取り残さない沖縄」とは、「国のためなら一部の犠牲は仕方がない」とする自民党の政治とは真逆の考え方です。日本政府が沖縄に基地を押し付けて平気なのは、国(自公政権)の安定のためなら沖縄の犠牲は仕方がないという前提があるからです。デニー知事を選ぶことは、その考えに沖縄県民としてNOと言っていることです。自民党の知事候補者は、悪魔のようにささやきます、「一部企業の利益のためには移設先とされる名護市の犠牲は致し方ない」、また名護市内でも渡具知市長率いる与党議員が言います、「国には逆らえない、人口の少ない名護市の東側の犠牲は、仕方がない」。国はこの県民の「分断」を操作し高見で見ているのです。

の中には、デニー知事に投票してない市民県民も含まれます。ウチナーンチュもナイチャーも、保守も革新も、若者もお年寄りも、障がい者も、沖縄に住むすべての人たちのために政治を行うのが、デニー知事の目指す「新しい沖縄」なのです。私はこの「共存」の政治こそ「希望」があると思います。



デニー知事と共に東恩納たくま

### 「ふんやんせぬ」

私が初めて市議に立候補した時から、この想いは変わりません。ふるさとの自然、暮らし、文化とつながった沖縄のアイデンティティーを大切にしながら、雇用を守り、創り、持続可能な経済をみんなの力でつく

り上げていく。色々な人の様々なアイデアが活かせる、そういった地域の活性化を行政がバックアップする。そして、そんな可能性豊かな地域の財産と生活環境を破壊し、希望ある未来を奪う負の遺産の基地建設はダメだと、要らないと、はっきりと国にも申ししていく名護市。その実現のために今後も市議として、市政に携わりたいと考えています。

毎日目にする大浦湾は、土砂運搬船が行きかい、赤いブイで仕切られています。ですが、それでもまだ青々と美しく、「あきらめるな」と私に言っているようです。子どもたちの未来を考えれば、この海を埋め立てて、基地を造ることなど、許して良いわけがありません。この海が本当に私たちみんなにとって「希望の海」になるよう、これまで同様、多くの方々の力を借りて、様々な取り組みを行っていきます。基地問題だけではありません、経済も、福祉も、教育も、すべてにおいて、市民一人一人を大切にしながら、これからも全力で取り組んで行けたらと考えています。ぜひ市政に対するご意見、たくまもつと頑張れの声をお聞かせ下さい。ゆたしくつにげーさびら



## 東恩納たくまの一般質問

東恩納たくまは去る六月議会で

〇基地問題について

(1) シュワープでの伐採工事について

(2) ロシアによるウクライナ侵攻について

〇旧消防庁舎等跡地事業について

〇辺野古沖長島で発見された鍾乳洞について

〇名護市内の二つの中学校が定期テストを廃止したことについて

〇循環型社会への取組について

(1) 生ごみ処理とたい肥作りについて

(2) 瀬高区の生ごみ処理について

質問しました。以下要約と解説を行います。

〇基地問題について

ロシアによるウクライナ侵攻、侵略戦争が続く中で、軍事基地が標的にされ、攻撃されています。沖縄には日本全体の米軍専用施設の七十%以上が押し込められており、そして今、新たに大浦湾・辺野古崎を埋め立てて米軍専用施設を建設しようとしています。この状況を踏まえ、どのように受け止めているか市長に質問しました。

市長は、ロシアとウクライナの戦争に関して名護市議会でも採択された意見書と同じ考えだと述べ、続けて「戦争で軍事基地が標的にされているんじゃないかということですが、軍事的な攻撃目標の考え方については知見を持ってお

りません」「有事の際という仮定の質問についてお答えすることは差し控えたい」「いかなる事態にも対応できるよう政府が取り組んでいるもの」と理解をしている」と述べました。

市民の生命と財産を守るのが仕事である市長の発言として、あまりにも無責任ではないでしょうか。ロシアとウクライナの戦争を目的の当たり前にして、市民は今、戦争になれば、沖縄が標的になるのではないかと心配しています。それは七十七年前に日本の捨て石にされ、人口の四分の一が犠牲となり、今なお米軍事基地を抱える状況だからです。新たな軍事基地は、戦争で攻撃の対象となりうることは、歴史を学べば明らかです。辺野古に新基地を造ることで、名護市民の財産である自然環境は壊され、生命は危険にさらされる。翁長雄志前知事は自民党員でありながら、明らかに県民にとって不利益となる新たな基地建設には真っ向から反対しました。政府が基地を強いるのは沖縄の犠牲をなんとも思っていないからだと思抜いたからです。それに比べて渡具知氏は、「いかなる事態にも対応できるように政府が取り組んでいる」と手放しで政府に任せるのみ。市長として市民を守る役割を放棄していると思えません。政府との太いパイプを誇るのなら、戦争が起きた時、キャンプシュワブが攻撃された時、どのような手段で住民が守られるのか、住民の避難経路などを政府に確認するべきでしょう。島尻安伊子議員は「ガマに逃げるしかない」と言っています。名護市長として、市民を守る為に国に毅然とした態度で臨むべきです。

〇渡具知市長の親族会社への旧消防署跡地の売却について

ホテル建設の行程変更や設計変更について、届出は何回提出され何回受理されたか問いました。

市から示された資料には実に7回の変更届が出され、すべて即日またはそれに近い日数で受理されています。

6月議会で明らかになった経緯の中で特に問題なのは①未だにホテル建設の着工のめどが立っていないこと。この間、市の土地は有効利用されずに、経済効果はゼロのままです。②設計変更によって議会で承認された建物の棟数が減らされ、見込まれた市の固定資産税が年間およそ850万円の減となること③こうした当初の計画から後退する変更が続いているにも関わらず、市が十分な審議や検証をしないまま、すぐに変更を受理していること。市長の親族企業ということで、職員が忖度しているのでしょうか考えられません。

また、プロポーザルの段階で、温泉の開発を提案した企業があり、それが実現した際には入湯税として市に年数百万単位の収入が生まれていたということもわかっており、落札した大和ハウスの提案の何が他の企業より優れていたのか、ますます不明となってきました。

さらに、今議会の百条委員会の報告では、市長の親族企業の子会社サーバントが、土地売買契約を大和ハウスから継承する前に、すでに土地の購入代金の一部を振り込んでいたことが明らかになりました。市が継承を認めると最初から決まっていたからでしょうか。



旧消防署跡地事業について、市長の圧力があつたのでは、という疑惑は日に日に深まるばかりです。7回にも及び変更申請により、議会で承認された内容は、かなり変わってきています。これは、一度契約を白紙に戻し、もう一度議会での承認を得る必要があると考えます。

### ○文化財保護について

去る五月二十八日、名護市立中央図書館にて、「辺野古沖長島で発見された鍾乳洞く小さな宝石箱を開いてみる」と題して、シンポジウムが行われました。日本自然保護協会が行った調査に参加した九州大学の学術研究者で日本洞窟学会元会長の浦田健作先生は、長島鍾乳洞は世界でもまれな鍾乳洞で、地球史を知る貴重な場所であると評価し、論文も発表しています。教育委員会も長島鍾乳洞を調査していますが、どのように評価しているのか、伺いました。

教育委員会からは「これまで、三回の現地調査を行っており、小さな鍾乳洞の中にリムストーンや石筍、ビーチロック、枝サンゴなどが鍾乳石のように固まった固結礫塔につけつれきごとと呼ばれるものなどが見られカルスト地形や鍾乳洞の成り立ちを考察する貴重な場所だと認識しております」という、適切な回答をいただきました。

☆この回答を受け「長島鍾乳洞を調査し、国の天然記念物に指定するよう求める意見書」を6月議会最終日に東恩納琢磨が提案者となり提出し、賛成多数で可決されました。自民党系議員と公明党の議員は文化財保護に関するこの意見書にも反対しました。全文は別紙に掲載します。

### ○中学校の授業改革の取組について

子どもたちが授業の理解度を深めるためとして、名護市内の二つの中学校が定期テストを廃止し、代わりに単元テストに取り組んでいます。実施から一年が経過し、その成果と課題、そして今後の取組について、教育委員会の見解を伺いました。教育委員会は、「学力調査結果において学力の向上が見られた」とし、その理由として、単元テストの実施により、繰り返し学び直しができたこと、また生徒一人ひとりができるようになるまで個別指導を充実させたこと、生徒自身が計画的に学習に取り込み学習意欲の向上が図られたこと」を挙げました。また不登校や不登校傾向の生徒にとっては単元テストであれば、受験しやすく、学力の向上及び不登校の改善にも繋がったと、述べました。

課題として、追試に取り組まない生徒が一部いたというところで、そのため今年度から追試ではなく「計画的方針指導」に取り組んでいるとのことです。

また一部の保護者から、高校受験などのために

広い範囲での内容の試験の対応についてや、席次が示されないことに対する不安の声があったため、学期末に単元テストを集約した統一テストを実施し、席次を示しているそうです。

定期テストの廃止などの決定は学校長の判断であり、また実施の際には教職員や保護者の理解も必要となるため、教育委員会として、二校の成果と課題を他校と共有し、それぞれの学校の状況に合わせて検討がなされることを支援して行く、と回答しました。

### ○循環型社会への取組について

瀬高区では長年生ごみ処理・堆肥化事業を行い、堆肥を地域に無償で提供しています。現在名護市において生ごみの処理機が稼働しているのは瀬高区だけであり、これからも継続していくために、市としてどのようなサポートを考えているか、質問しました。

市は「瀬高区に平成十七年度に生ごみ処理機が設置されて以降、長年にわたり地域の管理の下、生ごみの堆肥化に勤められていることは素晴らしい」とし、生ごみ処理機自体の性能や、労力などの課題に対し、どのようなサポートができるのか、設備整備を実施した担当部署との協議を行ない検討して行くこと回答しました。

私からは、瀬高区がこれからも生ごみのだい肥化が続けられるよう、サポートをお願いしました。

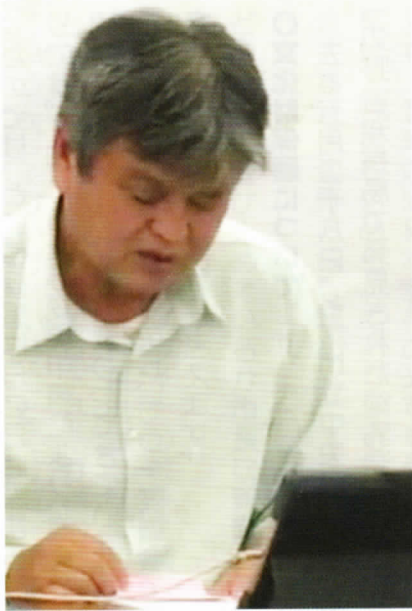


## 平和の礎の名前を読み上げる集いに参加しました

沖縄戦で亡くなり、糸満市の平和の礎に名前が刻まれている二十四万人余の方々のすべての名前を読み上げる、新しい試みが今年開かれました。六月十二日から二十三日の間で、朝の5時から夜の3時まで、沖縄はもちろん、全国、また外国から千五百人以上が参加。読み上げの様子はインターネットで中継されました。

私は実行委員会から、名護市の久志地域と宜野座村の一部と金武町の合計二千名の名簿をゆだねられ、千五百名を、久志支所で7名の参加者とともに読み、また、一見以北地域出身の約五百名を緑風学園6年生にお願いしました。

久志支所で、私は一人ひとりのお名前を読みながら、この方々がもし生きておられたら、どんな人生を送っただろう、そして沖縄はもつと豊かになっていただはずだ、とさえ、胸にぐっぐっくるもの



名前を読み上げる琢磨

がありました。

緑風学園の6年生は、担任の森元先生と松田校長のご理解のもと、平和学習の一環として、授業の合間に読み上げに参加して下さいました。生徒の皆さんは、地域で亡くなった方々のお名前をかわるがわる丁寧に読んでくださいました。一人一人の名前を読むことで、戦争のおびさを現実として捉え、戦争を起こしてはならないという思いを強くしてくれたのではないかと思っています。

来年度以降もこの取り組みに参加したいと思っています。また教育委員会にも働きかけ、名護市の生徒たちの平和学習の一環として多くの参加者を募っていきます。

## 9月の名護市議選、知事選に向け、立ち上げ式を行いました

去る六月二十四日、九月の選挙に向けて、東恩納たくま後援会の立ち上げ式を久志支所で行いました。

お忙しいところ、またコロナが心配される中、ご参加いただきまして、大変ありがたく思っています。

この立ち上げ式では、2019年に松田から天仁屋までの海域が認定されたホープスポットについて、Okinawa Environmental Justice Project代表の吉川秀樹さんが、「ホープスポット（希望の海）のネットワークとその可能性 広めよう 活用しよう」と題し、辺野古・大浦湾を中心とする海域の特性と、ホープスポットを活用していく



ホープスポットについて講演をする  
吉川秀樹氏

とが大切だというお話をして下さいました。吉川さんは、例えばホープスポットをブランド化して、地域の商品、観光を売り出すことに利用したり、世界の他のホープスポットに関わる人たちとネットワークをつくり、知名度を上げていくことなど、私たちが知恵を絞り、せっかくのホープスポット認定を、もっと活かして行く可能性を提言をされました。

また、九月の選挙に向けて、参加者のみなさんから色々なご意見を頂きました。それも踏まえつつ、選挙戦の中で、皆さんに熱く名護と沖縄の未来についてお話しできればと考えています。名護市全域で、市民のみなさんと顔を合わせてお話しできる機会を作って行きたいと思っておりますので、ご意見下さい。ご協力のほどよろしくお願い致します。